

抽取り検査ニ就テ ノ二、三ノ考察

佐藤良一郎

(昭和十九年七月十日受附)

1. 考察ノ対象

一定規格ヲ生産サレタ製品カ 2,000 個トカ
 3,000 個トイッタマウニ一定個数ツツ仕切ラレテ検
 査場ニ送ラシ。検査場デハソノーツツノ仕切カラ
 50 個トカ 100 個トカ、之モ亦一定個数ノ試料ヲ
 一回又ハ數回抽取ツテ、ソノ試料中ニ於ケル不良品
 品、即チ不良品ノ個数ヲ検心、コノ個数ノ如何ニモ
 ツテソノ試料ヲ抽取ツタ仕切ノ合格、不合格ヲ決定
 シテ工場トカ役所ノマウナトコロヲ想定スル。
 約言スレバ、抽取り検査ヲ行ツテソノ結果ニモノ製
 品ノーツツノ仕切ノ合格、不合格ヲ判定スル場所
 ヲ想定スル。サウスルト之ニ関係シテ色々ノ問題カ
 浮ビ上ツテ来ルカ、中デモ合格率ヲ定メル問題、即
 チ検査ラセケル仕切カラ抽取ツタ試料中ニ幾ノ不良
 品ノ個数カドノヤウニアツタソノ仕切ヲ合格ヤ
 セルカトイフコトヲ定メル問題カ一ソノ根本的ナ問

(2)

類テアルデアラウ。ソレデコノ尙類ニツキニ三ノ考
察ヲ進メテ見ヤウト思フ。

2. 合格圈ヲ定メル立場

検査ノ目的ハ不良品ヲ多数ニ含ム仕切ヲ作ケ、
不良品ハ全然無イカ、或ハ有ツテモ成ルタケルイ仕
切ヲ合格通過サセルニアルカラ、試料トシテ抽取シ
タ 50 個ナラ 50 個ノ中カラ不良品ハ例ハバ 2 個以
上出タラ合格サセナイデ他ノ場合ハ合格サセルトイ
フタマウニ、試料中ニ含まレル不良品ノ数ハノホサ
ナ方ヲ通シテ次キナ方ハ通サナイヤウニスレバソレ
デ合格圈ハ定ツテシマフノデ、別ニ尙類ニハナラナ
イトイフヤウニ一応ハ思ハレルノデアアルカ、試料ト
シテ抽出シタ 50 個ナラ 50 個ノ品ヲ、例ハバニ群
ニ分ケテ、各群ニ於ケル不良品ノ個数ヲ検ベ、ソノ
個数ノ或ル組合セハ合格圈ニ属スルトシ、他ハスバ
テ合格圈ニ属シナイトイフヤウニ、ニ群ニ於ケル不
良品ノ個数ノ組合セデ、合格、不合格ヲ判定シタラ
ドウイフコトニナルカトカ、或ハ又前後ニ回、50
個ナラ 50 個ツツ抽取シタ試料ノ中ニ不良品ハドノ
ヤウニ含まレテオタナラハ合格サセ、ドノヤウニ含
マレテオタナラハ不合格ニスルカトイフヤウナコトヲ考

ハテ来ルト、事ハソレホド簡單デハナイ。ノミナラズ、不良品ヲ含ム検査 即チ不良率ノ 0 ニ近イ仕切ヲ通シテ他ハ作ケルトイフ検査ノ目的自体モコレヲ数学的ニ明確ニ述ベマウトスルト見掛ホドニハ單純デナイコトハワカル。

ソシテ筆者ノ考ヘルトゴロデハ、合格圈ヲ定メルニハ、先ツ検査ノ目的トイフモノニツイテ数学的ニ明確ニ定義ヲ与ヘナケレバナラナイト思フノデ。最初ニコレヲ取上ケテツノ要英ヲ論ズルコトニスル。検査ノ目的ニ対シテ数学的ニ定義ヲ与ヘルコトハ、合格圈ヲ定メル立場ヲ明ニスルコトデアルトイツテモヨイカラ、次ニ論ジマウトスルコトハ合格圈ヲ定メル立場ニツイテデアルトイツテモヨイ。

價ニモ述バタヤウニ、抽取リ検査ノ目的トスルゴロハ、仕切ノ中ニ於ケル不良品ノ割合即チ不良率ノ 0 又ハ 1 ニ近イモノダケヲ採扱シテ、他ハスベテ作ケルニアルカ。仕切ノ不良率トイフモノハ未知デ既知ナノハ唯試料ニ於ケル不良率ダケデアル。故ニ既知ナル試料ノ不良率ニ基イテ仕切ノ合否ヲ決定シナケレバナラナイ。従ツテ或ル不良率以下ノ仕切ハ合格サセ、他ハスベテ不合格ニシマウト欲シテモ不可能デアル。可能ナノハ、試料ニ於ケル不良率カド

(4)

ノマウナ場合ニ仕切ヲ合格サセドノマウナ場合ニ
不合格ニスルコトイフコトヲ定メルコト、即チ試料
ニ於ケル不良率ノ如何ニ依ツテ合否ヲ決定スルコト
ダケデアアル。サテコノ決定ヲスルノニ色々ノ方式ハ
考ヘラレルノデアアルガ、大別ヲテ三ツノモノハ考ヘ
ラレル。換言スレバ合格圏(試料ニ於ケル不良率ヲ
定義セネバナラナイ、仕切ノ不良率ヲ定義シテモ実
効カナイ)ヲ定メルノニ、三ツノ立場カアルマウニ
思ハレル。

第一ハ検査ヲ受ケル一ツツノ仕切ニ関心ノ中心
ヲオイテ合格圏ヲ定メルトイフ立場デアツテ、期ス
ルトコロハ、ソレニヨツテ定メラレタ合格圏ヲ用ヒ
テ合格不合格ヲ定メルナラバ、或ル不良率ノ仕切、
例ハハ、不良率5%ノ仕切ハ合格セシメラレル確率
ハ98%デ、不良率20%ノ仕切ハ合格セシメラレ
ル確率ハ10%デアルトイツタマウニ、検査ヲ受ケ
ル仕切ノ不良率ニ依リテソレハ合格セシメラレル確
率カ予メ定メラレタ値ヲ有スルヤウニ合格圏ヲ定メ
ルノデアアル。即チ或不良率ヲモツタ仕切ヲ合格サセ
ル(或ハ不合格ニスル)確率ニ目標ヲ置イテ合格圏
ヲ定メルトイフノハ第一ノ立場デアアル。

コノ立場ハ眞実、不良率ノ低イ仕切ヲ誤ツテ不合
格ニスルコトハアツテモ、サウイフコトハ少クシタ

イ、或ハ眞実不良率ノ高イ仕切ヲ合格サセルコトハ
アツテモ サウイフコトハ出来ルダケ少クシタイト
イツタマウナ場合ニ採ラレル。

第二ハ、試料ニ於ケル不良率ニ基イテ仕切ニ於ケル
不良率ヲ推定シ、ソノ推定サレル不良率ノ値カコ
レコレノ範圍ニアルカラ合格サセル（或ハ不合格ニ
スル）トイツタマウナ方式ヲ合格圈ヲ定メルノデア
ツテ、ゴノ立場デハ、或ル不良率ノ仕切カドレホド
ノ確率ヲ合格セシメラレル（或ハ不合格ニナル）ト
イフコトハ向ハナイ。関心ノ中心ハ、眞実ノ不良率
カ合格セシメラルベキ範圍ニアル仕切ヲ不合格ト判
定シ、眞実ノ不良率カ不合格ニサルベキ範圍ニアル
仕切ヲ合格ト判定スル。ソノ判定ノ誤リヲ犯ス確率
或ハ眞ニ不良率カ合格セシメラルベキ範圍ニアル仕
切ヲ合格ト判定シ、眞ニ不良率カ不合格ニサルベキ
範圍ニアル仕切ヲ不合格ト判定スル確率ニ置クノデア
ツテ、或ル不良率ノ仕切カドレダケノ確率ヲ合格
セシメラレルカトイフコトハ向ハナイノデアアル。合
格ト判定シ、不合格ト判定スルソノ判断ノ的中確率
トイフコトニ目標ヲ置イテ合格圈ヲ定メルノカ第二
ノ立場デアアル。

第三ノ立場トシテ考ハラレルノハ、既ニ検査ノ結
果合格セシメラレタ仕切ノ中ニ、或ル不良率ノ仕切

(6)

は如何ナル割合で合マシテナルカ、換言スレバ既=合格セシメラレタ仕切か或ル不良率ヲ有スル確率トイフコトニ関心ノ中心ヲ置ク立場デアツテ、例ハバ突メラレタ合格圏ヲ用ヒテ仕切ノ合否ヲ定メルヲバ、既=合格セシメラレタ仕切ノ中カラ、或不良率ノ仕切ノ現レル確率カ豫メ指定サレテアル値 α =革シートカ α 以下(或ハ以上)デアルトイフヤウニ合格圏ヲ設ケマウトスルノカ第三ノ立場デアル。

第三ノ立場デアハ、既=合格セシメラレタ仕切か或不良率ヲ有スル確率トエフコトヲ関心ノ目標トスルカ、コノヤウナ立場ハ既=合格セシメラレタ仕切ニ対スル信頼度トイフコトヲ尙題ニスルトキニハ当然採用サル心キトコロノ立場デアル。

要スルニ合格圏ヲ定メルニ

- (1) 或ル不良率ヲモツタ仕切カドノヤウナ確率デ合格セシメラレルカトイフヤウニ、検査ヲ受ケル仕切ノ方ニ関心ノ中心ヲ置イテ合格圏ヲ定メル立場
- (2) 合格ト判定シ、不合格ト判断スルソノ判断ノ的中スル(或ハ的中シナイ)確率如何トイフヤウニ判定ノ信頼度ニ関心ノ中心ヲ置イテ合格圏ヲ定メル立場
- (3) 既=合格セシメラレタ仕切ノ中カラ或不良率ノ仕切ノ現レル確率如何トイフヤウニ、既=合格セ

シメラレタル仕切ニ対スル信頼度ニ関心ノ中心ヲ
置イテ合格圏ヲ定メル立場

トイフ三ツノ立場カ區別サレ、夫々或ル実用上ノ要
求ニ対応スルコトカ認メヲレル。即チ、

- (1) ノ立場ハ、不良率ノ低イ仕切ヲ誤ツテ不合格ニ
スル危険、又ハ不良率ノ高イ仕切ヲ誤ソテ合格ニ
セル危険ヲ出サルガケホサク制シマウトイフ場合
ナドニ、
- (2) ノ立場ハ、検査者カ各仕切ノ合否ノ判断ヲ誤ルコ
トカアツテモ、ソノ過失ヲ犯ス危険ヲ或ル一定ノ
程度ニ止メマウトスフ場合ニ、
- (3) ノ立場ハ、不良率カ或ル程度ヲ超エタ仕切カ合
格品ノ中ニ殆ド入ツテホナイヤリニトカ、或ハ不
良率カ或程度以下ノ仕切カ或ル程度以上、例ヘバ
90%以上入ツテホルヤウニシマウトイツタヤウ
ナ場合ニ、
採用サレル。

3. 第三ノ立場ニヨル合格圏ノ定メ方ニツイテ

前述ノヤウナ三ツノ立場ノ各ニ於テ、更ニ色々ノ
立場カ考ヘラレ、従ツテ各ノ立場ニ対応シテ互ニ異
ル多様ノ合格圏カアリ得ルノデアルカ、今ソレヲニ

(8)

ツイテ議論スルコトハ避ケテ他ノ機会ニ譲ルコト、
シ、第三ノ立場ニヨル合格圏ノ定メ方ニツイテ述
ルコト、スル。

幸柄ヲ明ニスル便宜上、試料ハ各社切ニツキ唯一
組ガケ抽取ルモノト仮定シ、且次ノヤウナーツノ模型
ヲ想定スルコト、スル。

(イ) 各社切ノ大サハ N デ、 N ハ 5,000 トカ 1,000
トイツタマウニ相当ニ大キイ。

(ロ) 各社切ニ於ケル不良率 (θ トシマウ) ハ非常ニ
小サイ。

(ハ) 各社切カラ抽取ル試料ノ大サ n ハ 100 個程度
トカ 200 個程度トイツタマウニ凡ソノ程度カ定
ツテキルガケテアルカ、 n 個ノ區カ確率論ノ意味
テ互ニ独立ト看做サレル程度ノモノデアアル。(コ
ノ仮定ハ、次ニ述バル μ ナルモノヲ連続変数ト
看做サウトエフ下心ニ外ナラナイ)

(ニ) $n\theta \equiv \mu$ ハ θ ト 1 トノ間ニアル値ガケヲ取り
且ツ連続変数ト看做サレテ、ソノ確率法則 $P(\mu)$
ハ次ノ式ヲ与ハラレル) *

*

コノ仮定ニハ何等根據ハナイ。單ニ説明ノタメニト
ツタノデアアル。

$$P(\mu) = A(1-\mu)e^{-\frac{\mu}{\sigma}}, \quad 0 < \mu \leq \infty \quad \text{=対して}$$

$$= 0 \quad \mu, \sigma \text{ノ他ノ値=対して}$$

A 、 $\int_0^{\infty} P(\mu) d\mu = 1$ トナルヤウニ定メラルベキ定数ヲ、 σ ハ正ノ定数デアアル。

上述ノ模型ニ於テハ n 回ノ中カラ x 個 (コノ x モ實際問題デハ n ニ比シテ可ナリ小テアルヲ普通トスル) ノ不良品ノ出ル確率ハ ほぼ ち せんノ法則 部分

$$\frac{e^{-\mu} \mu^x}{x!}$$

ヲ表ハサレルモノト考ヘテヨイカラ 今 $x \leq x$ ナルトキハ仕切ハ合格セシメラル。 $x > x$ ナルトキハ仕切ハ不合格ニサレルモノトスルナラバ、合格セシメラレタ仕切ノ中カラソノ μ ノ値ハ或ル値 μ' 以下デアアルヤウナ仕切ノ現レル確率 (之ヲ $P\{\mu \leq \mu'\}$ テ表ハサウ) ハ次ノヤウニ表セルデアラウ。

$$P\{\mu \leq \mu'\} = \sum_{x \leq x} \int_0^{\mu'} \frac{e^{-\mu} \mu^x}{x!} (1-\mu)e^{-\frac{\mu}{\sigma}} d\mu$$

$$= \sum_{x \leq x} \int_0^{\mu'} \frac{\mu^x e^{-\mu}}{x!} (1-\mu)e^{-\frac{\mu}{\sigma}} d\mu$$

(10)

ソコデ若シ確率 $P\{\mu \leq \mu'\}$ ノ値ヲ例ヘバ予メ指定サレタ値スヨリホナラシメマイト欲スルナラバ

$$\sum_{x \geq x_0} \left(\frac{e^{-\mu} \mu^x}{x!} (1-\mu) e^{-\frac{\mu}{\sigma}} d\mu \right) / \sum_{x \geq x_0} \left(\frac{e^{-\mu} \mu^x}{x!} (1-\mu) e^{-\frac{\mu}{\sigma}} d\mu \right) \geq \alpha \quad (3)$$

ガ成立ツヤウニ x , ノ値ヲ定ムレバヨイ。コノマウニシテ得タ x , ノ値ヲ以テ定義サレタ x ノ区域 $x \leq x$, ヲ合格圏トスルナラバ合格サセラレタ仕切ノ中カラ μ ノ値ガ μ' 以下デアルヤウナ仕切ノ出ル確率ハ α 以上デアル。コノマウナ仕切デ合格圏ヲ定ムヤウトスルノハ第三ノ立場ニヨル合格圏ノ定ム方デアル。

説明ノタメ数值ノ例ヲ次ニ示サウ。

$\mu \theta \equiv \mu$ ガ (1) ニ示スマウナ確率法則ニ従フモノトスルト (コノ仮設ハ前ニ注意シタ通り單ニ想定サレタモノデアツテ何事ノ基礎ヲモ有シナイ。唯タムカ 0 ト 1 トノ間ノ値ヲ取ツテソレ以外ノ値ヲ全然取ラナイト云フ仮設カラ便宜仮想シタモノデアル) μ ノ数学的期待即チ平均 (コレヲ $\tilde{\mu}$ デ表ハサウ) ハ次ノマウニ書ケル。

$$\tilde{\mu} = \int_0^1 \mu(1-\mu)e^{-\frac{\mu}{\tilde{\sigma}}} d\mu / \int_0^1 (1-\mu)e^{-\frac{\mu}{\tilde{\sigma}}} d\mu \quad (3)$$

例 仮に $\tilde{\mu} = 0.01$ であり、アルトイフコトが何等かの
 根拠で分つておるとする。即ち検査場=持ッテ来
 ル各仕切カラ 100個程度ノ試料ヲ抽取シタトキ平均
 シテ 1個程度ノ不良品 出ルトイフコトが何等かの
 根拠で判ツテおるとする。サウスルトコノトキ
 ノノ値ハマハリ 0.01 ト看做シテモ差支ナイト
 イフコトヲ計算サレルカラ 若シ μ' ノ値ヲ例ヘバ
 0.02、 α ノ値ヲ例ヘバ 0.85 = 定ムルナラハ

$$\sum_{x \leq x_1} \int_0^{0.02} \frac{e^{-\mu} \mu^x}{x!} (1-\mu) e^{-\frac{\mu}{\tilde{\sigma}}} d\mu / \sum_{x \leq x_1} \int_0^1 \frac{e^{-\mu} \mu^x}{x!} (1-\mu) e^{-\frac{\mu}{\tilde{\sigma}}} d\mu \geq 0.85 \quad (4)$$

が成立ツマウ = x_1 ノ値ヲ定ムレバヨイ。トコロテ
 実際 = コノマウナ x_1 ノ値ヲ求メテミルト、 x_1 ノ値
 ハ何デアツテモヨイトイフコトがワカル (第ノ表參
 照) コレハイフマデモナク μ ノ (1) デ示サレルマ
 ウナ確率法則 = 従ヒ且ツ $\tilde{\mu} = 0.01$ ナルコトガワ
 カツテおるとキハ抽取リ検査ヲ行ハナクトモソノマ
 ン合格サセルハ要求ガ充サレルドイフコトヲ示ス =

(12)

外ナラナイ。

上ノ場合若シ $\alpha = 0.90$ ナラシメヤウトスルナ
ラバ x , μ 値ハドウナルカ。 実際ニ計算シテミル
トコノヤウナ値ハ存在シナイ (第一表参照)。 コノ
ヤウナ誤デアルカラ、註文通りノ合格圏ハ常ニ定マ
ルトハ限ラナイ。

参考ノ $\sigma = 0.01$ ナルトキニ於ケル積分

$$\frac{A}{x!} \int_0^{\mu} \mu^x (1-\mu) e^{-\left(1+\frac{1}{\sigma}\right)\mu} d\mu$$

μ 値ハ次表ノヤウナル。

μ^x	0	1	2	3	($\sigma = 0.01$)
0.01	0.63376	0.00264	0.00001	-	
0.02	0.86150	0.00587	0.00003	-	
0.03	0.94380	0.00786	0.00006	-	
0.04	0.97348	0.00887	0.00008	-	
0.05	0.98417	0.00934	0.00009	-	
0.06	0.98803	0.00955	0.00009	-	
0.07	0.98942	0.00964	0.00009	-	
0.08	0.98992	0.00968	0.00010	-	
0.09	0.99010	0.00969	0.00010	-	
0.10	0.99016	0.00970	0.00010	-	
1.00	0.99020	0.00970	0.00010	-	

又 $\sigma = 0.05$ トシテ積分(4')ノ値ヲ計算シテミ
 ルト次ノマウニナル。コノトキニハ $A = 21.05263$
 ナル。

μx	0	1	2	3	4
0.01	0.18897	0.00091			
02	34061	316	0.0002		
03	46228	618	6		
04	55990	958	12		
05	63820	1308	20		
06	70102	1653	29		
07	75138	1979	40	0.00001	
08	79178	2281	51		1
09	82416	2556	63		1
10	85013	2802	74		2
11	87095	3021	86		2
12	88763	3212	97		2
13	90100	3379	107		3
14	91171	3524	117		3
15	92030	3648	126		4
16	92717	3754	134		4
17	93269	3845	142		5
18	93710	3922	148		5
19	94064	3988	154		5
20	94345	4043	160		6
22	94754	4128	169		6
24	95014	4188	175		7
26	95182	4229	181		7
28	95290	4258	185		8
30	95357	4278	187		8
32	95400	4291	189		8
34	95429	4301	191		8
36	95446	4307	192		8
38	95458	4311	193		8
40	95465	4314	193		9
42	95470	4316	194		9
44	95472	4317	194		9
46	95474	4318	194		9
48	95475	4318	194		9
0.50	0.95476	0.04319	0.00194	0.00009	
1.00	0.95477	0.04319	0.00195	0.00009	

4. 仕切=於ケル不良率ノ分布法則

前節デ説明ノタメニ μ ノ確率法則ヲ(1)デ示スマウナモノト想定シタ。イフマデモナク検査ノ対象トナルトコロノ各仕切ノ不良率 θ ハ未知ノモノデアリカラ、コレデ定義サレルトコロノ $n\theta \equiv \mu$ モ亦未知デアリ。ソレ故ソノ確率法則ハ未知デアリ。コノ意味ニ於テ、第三ノ立場テ合格圈ヲ定ムルトイフ問題ハ不可能ノ問題デアルトイッテヨイカ。唯ダ何等カノ根據即チ先験的ナ理由デカ、或ハ過去ノ理由ニヨツテデカトニカク μ ノ確率法則カ仮定サレルナラバ、ソノ仮定カ許サレル限りニ於テ、第三ノ立場ニヨル合格圈設定ノ問題ハ可能デアルトイハヤリ。

若シ過去ノ経験ニ基イテ μ ノ確率法則ヲ仮定シヤルトスルナラバドラスレバヨイカ、コレニハ色々ノ道ガアラウカ。吾マノコ、テ想定シテキル抽取り検査ノ場合ニハ試料トシテ取ル品ノ個数 n 及ビソノ n 個ノ中ニ於ケル不良品ノ個数 x カ既知デアリ。從ツテ若シ検査場ニ來ル各仕切カ統計的ノ意味テ恒常性ヲ持ツテキルト仮定シテヨイナラバ μ ノ確率法則ハ推定出來ルトエフコトニ目ヲツケルノカークノ道デアラウ。

然ラバコノヤウナ μ ノ確率法則カラ、 μ ノ確率法

則ヲ引出スニハドウスルカ。

今過去ノ経験ニ基キテ假定スルトコロニ x ノ確率法則ヲ $F(x)$ 、導キ出サウトスル μ ノ元確率法則ヲ $p(\mu)$ トスルト μ ヲ連続変数ト看做シテ差支ナケレバ $p(\mu)$ ハ方程式

$$\int_0^M \frac{\mu^x e^{-\mu}}{x!} p(\mu) d\mu = F(x)$$

($x = 0, 1, 2, \dots$) (4)

ヲ満足スルヤウニ定メヨシ、バヨイ。但シ M ハ μ ノ取り得ル最大ノ値ヲ示ス。

$F(x)$ ヲ与ヘテ $p(\mu)$ ヲ定メル一般的问题ハ今ハ取扱ハナイコトニシテ、 $F(x)$ ハ特ニ

$$F(x) = (1 - e^{-\lambda}) e^{-\lambda x} \quad (x = 0, 1, 2, \dots) \quad (5)$$

(但シ λ ハ正ノ既知数ナル)

ヲ与ヘヨシ 且 μ ガアラユル正ノ値ヲトル、則チ $M = \infty$ ト假定シテヨイ。

コノ場合ノ結果ヲ示スト次ノヤウニナル。

$$p(\mu) = \frac{1}{\omega} e^{-\frac{\mu}{\omega}} \quad (6)$$

$$\text{但シ } \omega = \frac{1}{e^{\lambda} - 1}$$

(16)

実際

$$\begin{aligned} & \int_0^{\infty} \frac{\mu^x e^{-\mu}}{x!} \left(\frac{1}{\alpha} e^{-\frac{\mu}{\alpha}} \right) d\mu \\ &= \frac{(1 + \frac{1}{\alpha})^{-x-1}}{x! \alpha} \int_0^{\infty} t^x e^{-t} dt \\ &= \frac{1}{\alpha} \left(1 + \frac{1}{\alpha}\right)^{-x-1} \end{aligned}$$

トナルカラ

$$1 + \frac{1}{\alpha} = e$$

従ッテ $\alpha = \frac{1}{e-1}$

ト置ケバ

$$\begin{aligned} & \int_0^{\infty} \frac{\mu^x e^{-\mu}}{x!} \left(\frac{1}{\alpha} e^{-\frac{\mu}{\alpha}} \right) d\mu \\ &= e^{-\lambda} (e^{\lambda} - 1) \\ &= (1 - e^{-\lambda}) e^{-\lambda x} \quad (7) \end{aligned}$$

トナルカラ、(6) ハ確 = 求メル函数ノ一ツデナル。

サテ (7) ノ右辺ヲ $\mu =$ 関スル函数

$$\phi(\mu) = e^{-\mu} \left(\frac{1}{\alpha} e^{-\frac{\mu}{\alpha}} \right) = \frac{1}{\alpha} - \left(1 + \frac{1}{\alpha}\right) \mu \quad (8)$$

(17)

、第 n 次モーメント α^n が割ッタモソトミレバ

$$\int_0^{\infty} \mu^k e^{-\mu} p(\mu) d\mu = \int_0^{\infty} \mu^k \phi(\mu) d\mu \quad (9)$$

($k = 0, 1, 2, \dots$)

が成立ツ、然ルニ(9)ノ積分ヲ M_k ヲ表ハスト

Cramér-Wold* =ヨリ

$$\sum_{k=1}^{\infty} \left\{ M_{2k} \right\}^{-\frac{1}{2k}} \quad (10)$$

が発散スルトキ、 $e^{-\mu} p(\mu)$ ト $\phi(\mu)$ トハ殆
ド到ルトコロヲ相違シト云ヘルカラ、級数(10)が
発散スルコトヲ示セバ(6)ヲ以テ求メル函数ヲアル
ト断定シテヨイ。

トコロヲ各々ノ場合ニハ級数(10)ハ次ノヤウニ
書ケル。

$$\sum_{n=1}^{\infty} \left\{ (2n)! (1 - e^{-\alpha}) e^{-2n\alpha} \right\}^{-\frac{1}{2n}} \quad (11)$$

* H. Cramér and H. Wold, Jour. London
Math. Soc. Vol. 11 (1936) P. 291

(18)

故に結局

$$\sum_{k=1}^{\infty} \left\{ (2k)! \right\}^{-\frac{1}{2k}}$$

が発散スルコトヲ示セバヨイノデアアルガ、コレハ

$$(2k)! < (2k)^{2k}$$

ナルコトニ目ヲツケレバ明デアアル。

依ツテ殆ンド到ルトコロニ於テ

$$e^{-\mu} p(\mu) \equiv \frac{1}{\alpha} e^{-\mu(1+\frac{1}{\alpha})}$$

従ツテ

$$p(\mu) \equiv \frac{1}{\alpha} e^{-\frac{\mu}{\alpha}} \quad (12)$$

$$\text{但シ } \alpha = (e^{\lambda} - 1)^{-1}$$

上述ノマウナ次第デアアルカラ、モシ過去ノ記録カ
アツテ、ソレニヨリ (5) ナ示スマウナ λ = 算スル
確率法則カ推定サレルナラバ、コレニ基イテ $p(\mu)$
ヲ求メルコトカ出来、従ツテ第三ノ立場ニヨル合格
圈ヲ定メテ抽取リ検査ヲ行フコトカ出来ル、カウネ
ツタマウナコトハ、決カ古ク且ツ多数ノ品ヲ生産ス
ル工場デハ実行可能デアラウ。

コノマウナトコロデハ、過去ノ記録ハ相当ニ沢山
アルト想像サレルカラデアアル。尤モ与ヘラレタ任意
ノ函数 $F(x)$ ニ対シテ (4) ヲ満足サセルマウナ函数
 $P(\mu)$ ヲ求メルト云フ問題ハ解ケタトシテノコト
デアアル。

$P(\mu)$ ヲ推定スル上ニ何等頼ルベキ経験モナク又
 $P(\mu)$ ニ関シテドノマウナ極定ヲオイテヨイカノ理
論的根據ヲ有シナイトキニハ第三ノ立場ニヨル合格
圖ノ設定ハ不可能デアアルコトハ云フマデモナイ。

5. $P(\mu)$ ハ指数函数デアルトキノ合格圖ニツイテ

$m\theta \equiv \mu$ ノ元確率法則 $p(\mu)$ ハ

$$P(\mu) = \frac{1}{\sigma} e^{-\frac{\mu}{\sigma}} \quad (\mu \geq 0)$$

デ表ハサレルトキ、既ニ合格セシメラレタ仕切ノ中
カラ μ ノ値ハ μ' 以下デアアルマウナ仕切ノ現レル
確率ハ与ヘラレタ値 α 以上デアアルマウナ合格
圖ヲ定メルニハ唯一組ノ試料ヲ抽取ル場合ナラバ、

$$\sum_{x \leq x_0} \int_0^{\mu'} \frac{\mu^x e^{-\mu}}{x!} e^{-\frac{\mu}{\sigma}} d\mu / \sum_{x \leq x_0} \int_0^{\infty} \frac{\mu^x e^{-\mu}}{x!} e^{-\frac{\mu}{\sigma}} d\mu = \alpha \quad (14)$$

(20),

ヲ満足サセルヤウニ x , ヲ定メレバヨイ。 $x \leq x_1$,
カ所要ノ合格圏ヲアル。

サテ μ ノ正確率法則カ (13) テ表ハサレルト
キ μ ノ平均 $\tilde{\mu}$ 求メヤウニナル。

$$\tilde{\mu} = \int_0^{\infty} \mu p(\mu) d\mu = \frac{1}{\alpha} \int_0^{\infty} \mu e^{-\frac{\mu}{\alpha}} d\mu = \alpha$$

今説明ノタメ $\tilde{\mu} = \alpha = 0.01$ トシテ μ
カ例ハハ 0.002 以下ノ仕切即チ不良品カ 100
ニツキ 2 程度以下含マレル仕切カ合格シタ仕切ノ中
カラ、例ハハ 90% 以上出ルヤウニ合格圏ヲ求メテ
ミヤウ。即チ

$$\sum_{x \leq x_1} \int_0^{0.02} \frac{\mu^x e^{-\mu}}{x! \alpha} e^{-\frac{\mu}{\alpha}} d\mu / \sum_{x \leq x_1} \int_0^{\infty} \frac{\mu^x e^{-\mu}}{x! \alpha} e^{-\frac{\mu}{\alpha}} d\mu$$
$$\geq 0.90$$

ヲ満足サセルヤウニ x_1 ノ値ヲ求メヤウ。

實際計算ニヨルト $\alpha = 0.01$ トキニハ積分

$$\frac{1}{x! \alpha} \int_0^{\mu} \mu^x e^{-(1+\frac{1}{\alpha})\mu} d\mu$$

ノ値ハ第三表ノヤウニナル

$$\frac{1}{\sigma \sqrt{2\pi}} \int_0^{\mu} \mu^2 e^{-\left(1 + \frac{1}{2}\right) \frac{\mu^2}{\sigma^2}} d\mu, \text{ 表}$$

($\sigma = 0.01$)

μ/σ	0	1	2
0.01	0.62949	0.00263	0.00001
0.02	0.85875	0.00588	0.00003
0.03	0.94226	0.00789	0.00006
0.04	0.97267	0.00893	0.00007
0.05	0.98375	0.00942	0.00009
0.06	0.98779	0.00964	0.00009
0.07	0.98926	0.00974	0.00009
0.08	0.98979	0.00978	0.00010
0.09	0.98999	0.00979	0.00010
0.10	0.99006	0.00980	0.00010
∞	0.99010	0.00980	0.00010

故ニ (16) ノ左辺ノ積分値ハ 0.87 ニ達シナイコトカ分ルカラ不要ノ合格圏ハ存在シナイ。

若シ上ノ場合 0.90 ノ代リニ 0.85 トスルナラバ抽取リ検査ヲ行ハナクともヨイコトニナル。トイフノハ (16) ノ左辺ニアル積分ノ比ハ $\alpha \rightarrow \infty$ ナリ

(22)

シムルトホ 0.85 ヲ超エルカヲデアル。

尚参考ノタメニ $\sigma = 0.05$ トシタトキノ積分(17)ノ値ヲ表示スルト次ノ通りデアル。

$$\frac{1}{x! \sigma^x} \int_0^x \mu^x e^{-(1+\frac{1}{\sigma})\mu} d\mu, \text{ 表}$$

($\sigma = 0.05$)

μ/x	0	1	2	3
0.01	0.18039	0.00087		
0.2	32662	364	0.00002	
0.3	44514	598	6	
0.4	54123	933	12	
0.5	61910	1282	19	
0.6	68224	1628	29	
0.7	73341	1960	40	0.00001
0.8	77489	2290	51	1
0.9	80850	2555	63	1
1.0	83575	2813	76	2
1.1	85785	3045	88	2
1.2	87575	3251	100	3
1.3	89027	3432	111	3
1.4	90203	3590	122	3
1.5	91157	3729	132	4

ix	0	1	2	3
16	91930	3848	141	4
17	92556	3952	149	5
18	93065	4040	157	5
19	93476	4116	164	6
20	93810	4181	171	6
22	94300	4284	181	7
24	94621	4358	190	8
26	94833	4410	196	8
28	94932	4448	201	9
30	95063	4474	205	9
32	95123	4493	208	9
34	95163	4506	210	10
36	95189	4515	212	10
38	95206	4521	213	10
40	95217	4526	214	10
42	95225	4529	214	10
44	95229	4531	215	10
46	95232	4532	215	10
48	95234	4533	215	10
0.50	0.95235	0.04534	0.00216	0.00010
0.6	0.95238	0.04535	0.00216	0.00010

(24)

6. 結 び

以上述べた事象タコトヲマトメルト次ノマウニナル。
即チ、

I] 抽取り検査ヲ行ツテ仕切ノ合格不合格ヲ決定
スルノニ

(1) 与ハラレタ不良率 θ ノ仕切ヲ如何ナル確率テ
合格サセル (或ハ不合格 = スル) カト云フ立
場テ合格圏ヲ定メルカ。

(2) コノ仕切ノ不良率 θ ハコレコレノ範圍ニアル
ト推定サレルカヲ合格 (或ハ不合格) ト判定
スルソノ判断ノ的中スル確率ヲドレダケニス
ルカト云フ立場テ合格圏ヲ定メルカ。

(3) 合格ト判定サレタ仕切ノモツ不良率 θ が或ル
値 θ' 以下デアル確率ヲドレダケニスルカト
云フ立場テ合格圏ヲ定メルカ。

ト云フ三ツノ道カアル。[コノ各マハ更ニ幾ツ
カニ分ケテ考ヘラレルカ。ソノ理論ハ他ノ機会
ニユツル]

II] I] (3) テ述べタ立場テ合格圏ヲ定メマウト
スルト θ ノ確率法則又ハ $n\theta = \mu$ (n ハ
試料ノ大キサ θ ハ仕切ノ不良率) ノ確率法則
ガ必要ニナルカ、コレハ一般ニハ未知デアルカ

六、この場合ニハ合格圏ハ定メラレナイ。唯ダ
 この確率法則カ何等カノ根據ヲ仮定サレ而カモ
 ソレハ実用上使用ニ耐エルモノデアラナラバン
 ノトキニハ所要ノ合格圏ハ定メラレル。

Ⅲ] μ ノ確率法則ヲ仮定スル際 若シ試料トシテ
 取ツタ n 個ノ品 (n ハ ∞ ヲ示スバタマウナ
 條件ニ從ツテキレバ必ずシモ一定シテキルコト
 ヲ要シナイ)ノ中ニ含まレル不良品 X ノ分布ニ
 ツイテ過去ノ記録カアリ、且仕切ヲ依ルトキノ
 操作カ統計的ニ恒常性ヲモット信セラレルナラ
 バ X ニ基イテ X ノ分布法則 $F(x)$ ヲ推定シ
 $F(x)$ ヲ既知函数トシ μ ノ確率法則ヲ表ス函
 数 $p(\mu)$ ヲ未知函数トスル積分方程式* (4)
 ノヤウナモノヲトクコトハ一ツノ方法デアル。

Ⅳ] 所要ノ合格圏ハ常ニ定マルトハ限ラナイト全
 時ニ又抽取リ検査ヲ要シナイ (過去ノ記録カ信
 頼スルニ足り、又仕切ヲ依ル操作カ恒常性ヲ持
 ツテキル限り)コトモ起リ得ル。

Ⅴ] 尚ツイデ一ニ附言スルナラバ、上ニ述フ
 第三ノ立場ヲ合格圏ヲ定ムル場合、仕切ニ於テ

* n カ不連続ノ場合ハソレニ対応スル適當ナ方程式

(26)
(28)

ル不良率の非常小サク。試料の大キサ n ハ
 n の 相 当 ナ 大 キ サ ラ 有 ス ル 程 度 ノ モ ノ、 仕 切
ヲ 構 成 ス ル 品 ノ 箇 数 N ハ 抽 取 ツ タ n 個 ノ 品 カ
確 率 論 的 意 味 テ 互 ニ 独 立 ト 考 ヘ ラ レ ル 程 度 = 大 キ
イ ト ス フ 仮 説 カ 成 立 ツ テ キ ル ナ ラ バ N 、 n ハ 必
ズ シ モ 一 定 シ テ オ ク コ ト ヲ 要 シ ナ イ。 例 ヘ バ N
ハ 正 確 = 5000 テ ナ ク テ 5000 程 度、 n ハ
正 確 = 100 テ ナ ク テ 100 程 度 ト イ フ ヤ ウ = ナ
ツ テ 井 テ 差 支 ナ イ。 ソ レ 故 仕 切 ヲ ツ ク ル ト キ =
正 確 = 5000 ナ ラ 5000 ト 数 ヘ。 試 料 ヲ 抽 取
ル ト キ = 正 確 = 100 ナ ラ 100 ト カ ヲ 考ヘ ナ ク ト モ 凡
ソ ソ ノ 程 度 テ ア レ バ 差 支 ナ イ ト イ フ 実 情 = ア ル ト
キ = ハ サ ウ シ テ モ 何 事 妨 ゲ ル ト コ ロ ハ ナ イ。 即 チ
 N 、 n カ 動 搖 シ テ モ 合 格 々 シ メ ラ シ タ 仕 切 ノ 中
カ ラ μ ノ 値 カ 或 ル 値 μ' 以 下 テ ア ル ヤ ウ ナ 仕 切
ノ 出 ル 確 率 ハ、 定 メ タ 合 格 圏 カ 動 カ サ ナ イ 限 リ ハ
一 定 ナ ノ テ ア ル。 コ ノ コ ト ハ 実 用 上 利 用 シ テ 或 ハ
便 利 ナ コ ト ガ ア ラ ウ カ ト 思 フ。

(昭和十九年七月六日脱稿)